

備前市事務事業評価シート

(平成21年度事業)

事業の概要			平成9年度		根拠法令・例規等	備前市加子浦歴史文化館設置条例
事業開始年度			平成9年度			
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目	基本施策	01	歴史と文化の輝くまちづくり	担当課(室)	生涯学習課
	小項目	施策	03	文化芸術の振興	職・氏名	係長 石井啓
事務事業名	03	加子浦歴史文化館管理運営事業		電話	64-1841	
					このシート作成に要した時間	7.0 時間

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
		目標値(A)	3250	3250	3250
入館者数及び文化講座参加者数					到達目標値
	実績値(B)	3669	3103	3159	
		達成率(B/A)	112.89%	95.48%	97.20%

成果指標設定の考え方・式や説明

1年間の年間入館者数と市民文化講座の参加者の合計

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	市内外を問わず、小学生・中学生・高校生・大学生等、また生涯学習をしようとする人々。歴史研究者・郷土史研究者(愛好家)・文学研究者・観光客・資料寄託者・資料寄贈者。
目的(何のために)	郷土に関する歴史・民俗・文芸資料の収集と保存につとめ、それらを後世に伝え、遺す。で収集した資料をもとに常設・企画展を行い、当館利用者の文化的向上と調査研究の一助となることを目的とする。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	当館の入館者のうち、市内の入館者はほとんどなく、ほとんどが観光客である。市の最東端に位置するという立地条件ながら、市民の利用度を少しずつ高め、文化を発信するスロットとしての役割を果たしたい。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
加子浦歴史文化館管理運営事業	企画展、文化講座を開催するとともに郷土に関する歴史、民俗、文芸資料の収集と保存につとめる。	

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
決算額	直接事業費		4,906	4,216	5,487	
	必要人員(人件費)	千円	0.91人	5,277	0.98人	5,820
	事業費		10,183	10,036	10,664	
	国県支出金				555	
	受益者負担		602	527	558	
	繰入金	千円				
	その他()					
一般財源		9,582	9,509	9,551		
受益者負担比率	%	5.9%	5.3%	5.2%		
結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
結果指標	加子浦歴史文化館の利用者数	説明	1年間の入館者数に文化講座の参加者数を加えたもの			
	結果指標量	事業	3,669	3,103	3,159	
	対前年比	%	-	84.6%	101.8%	
	活動コスト	円	4,866,491	4,175,628	4,884,427	
	単位当たりコスト		1,326	1,346	1,546	

事務事業の評価		妥当性評価 <A-E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い
	市民ニーズ	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている
	目的達成度	
有効性の評価	市民参加度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参加している

事業の目的が、それらの数値目標を行って成果を上げられるようになっているか

進行年度(H22年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	景気の低迷によって観光客はめっきり減少したが、H21年度の実績はさほど低くはなく、意外であった。しかし文化講座の参加者数は一気に下降線をたどっている。広報以外に事業についての周知活動を積極的にやりたいと考えている。						

総合評価		評価区分 <A-E>	図
文化講座の参加者数の減少という事実を除けば、年間の入館者数は3千人を越えており、まずまずといえるのではないだろうか。これをキープするのは困難なことであるが、努力していかなければならない。		B	

平成23年度の方向性及び取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	文化講座参加者が減少するのは、日生町で文化講座を開講するのがめずらしく、それを人々が新鮮に感じた段階から、これが定着するかもしれないかの見極めの段階にきたことを意味するのだと思う。平成23年度に文化講座を存続させるべきかいなかを考えながら、22年度の講座事業を展開したい。					